

## 岩手医科大学歯学会第6回総会抄録

日時：昭和55年11月8日（土）午前10時

会場：岩手医科大学歯学部講堂

演題1 体性感覚野 S<sub>1</sub> の様相特異性 (mode specificity) に対する疑義の提示

○鈴木 隆, 松本 範雄, 平 孝清  
佐藤 匡

岩手医科大学歯学部口腔生理学講座

Mountcastle はネコの体表の触覚, 圧覚は大脳皮質体性感覚野に投射し, 皮質ニューロンの配列と末梢受容野の位置関係には明確な対応があることを明らかにした。その際, 触覚, 圧覚, 深部感覚の三感覚野の特定部に投射するのであって, 他の感覚 (例えば痛覚, 温度覚など) は同一局部に投射されることはないと報告した。これを様相特異性と言う。

しかし, 我々は今回, この様相特異性に従わない現象を観察したのでそれを報告する。

①ネコの冠状回の顔面・口唇野の単1ニューロンのうちには, 口唇, ヒゲなどの触・圧刺激などの外に, 歯髄の侵害刺激にも応ずる polymodal な性質をもったものがあつた。

②元来, 歯髄は痛覚しか受容しないので, 上記ニューロンは皮膚の機械的受容器からの入力を受けるほかに痛覚受容器からの情報を収束していることになる。

③触覚受容野の配列を指標にし, 同一の機能的円柱で観察された歯髄応答ニューロンの放電パターンは殆んど同じカテゴリーに属するものだけが見え出された。

④同一の機能的円柱内でみられる歯髄応答ニューロンの末梢受容野の面積は比較的小さいが, その円柱の性質を特徴づける共通項的受容野のあることが判明した。

⑤共通項的受容野の生理学的意義は歯痛部位の特徴抽出機構と関連すると考えられた。

⑥以上の成績は, 大脳皮質体性感覚野の顔面, 口唇野では, 四肢, 体幹野に見られる様相特異性 (mode specificity) が存在しないのではないかとこの想定を示

唆する。

質 問：石川 富士郎 (歯矯正)

1) 感覚野の広さは他の動物と比べてどうですか。  
2) 触感覚と痛感覚が共に存在するとのことですが, それぞれの部位別によって両者の分布密度に差がありませんか。

回 答：鈴木 隆 (口生理)

1) 顔面野の広さについて

ネコのような夜行性動物の whisker area とか lip area は他の動物に比し広い。

これは動物の摂食行動などと大きな関係があると思う。

2) 触覚ニューロンと痛覚ニューロンの分布密度について, 今日話した whisker, lip area では歯髄応答性ニューロンの数は少なく数パーセント代である。

## 演題2：本邦における悪性喉頭腫瘍剖検例の統計的観察

○村田 厚, 藤沢 容子, 野田 三重子  
守田 裕啓, 佐藤 方信

岩手医科大学歯学部口腔病理学講座

近年, わが国の喉頭癌患者数は顕著な増加はみられないがこれまで喉頭癌の発生頻度は, 全人癌の2%よりは少ないといわれてきた。しかし, わが国で悪性腫瘍発生率第2位の座にある肺癌に近い将来に現在発生率第1位の胃癌にとってかわるであろうともいわれ, 呼吸器における悪性腫瘍はますます重要な位置を占めつつある。そこで演者らは本邦における悪性喉頭腫瘍の実態の一部を解明する目的で日本病理剖検輯報 (第15~19輯) より悪性喉頭腫瘍症例を集計し, 若干の統計的観察を行ったのでその成績を報告した。

日本病理剖検輯報 (第15~19輯) を基に悪性喉頭腫瘍剖検例 363例 (男性 326例, 女性 35例, 性不明2例) を集計し, 統計的に観察したところ, 次の結果を